

## ■素晴らしい体験ができました

- 22 年度情報科学部修学旅行 -

### パリ班 (11/20~25)

修学旅行中巡った場所はとても鮮明に覚えてい  
ます。ポンピドゥーセンター、ベルサイユ宮殿、ノ  
ートルダム寺院やサントシャペル教会のステンド  
グラスが印象的ですが、本音を言うとフランス  
全てが最高でした。どこへ行っても楽しくて  
素晴らしくて移動中も寝るのももったいな  
く写真ばかり撮っていたくらいです。今すぐ  
にでも、またフランスに行きたい。住みたい  
です。どう考えても五日は少なかったと思  
います。なんだかクラスの人とも仲良くな  
れた気がしますし、フランスマジックす  
ごいなあと思いました。

D2-1 寺田 万里奈



ベルサイユ宮殿にて

### ハワイ班 (11/20~25)

ハワイに来て初めて感じたのが、暖かい気  
候ときれいな海の風景でした。天候にも恵  
まれ、海の潮風が心地良かったです。

パールハーバーでは戦争の悲惨さと平和  
の尊さを学び、ダイヤモンドヘッド登山  
では頂上からワイキキビーチのきれいな  
景色を見渡し、ポリネシヤカルチャー  
センターではファイヤードアンスを  
はじめ先住民の文化に触れ、他にも  
ハワイの魅力を感じ、一生思い出に  
残る修学旅行になりました。

いつか、またハワイに行きたいです。

E2-1 磯 雄太郎



ワイキキビーチにて

### 沖縄班 (11/21~25)

220 名が参加した沖縄への修学旅行は、  
様々なことを学び有意義なものとなり  
ました。

美ら海水族館では、その大きさや周囲の  
景色の美しさに感動させられ、国際通  
りでは、友達と買い物をしたり食事を  
したり、とても楽しい時間を過ごしま  
した。

そして、ひめゆりの塔や摩文仁の丘  
では、戦争の悲惨さや過酷さを学び、  
生存者の方からお話を聞き、涙が出  
そうになりました。戦争の恐ろしさを痛  
感し、もう戦争が起きることのない  
今のような平和が続くことを願わず  
にはられません。

修学旅行を通して、自分自身成長し、  
多くの思い出を刻み、とてもいい勉  
強ができました。

L2-1 吉葉 美雪



ひめゆりの塔で平和の祈り

## ■高校生映画コンクールで 2 位に！

- 映画甲子園 2010 に出品 -

このような大きな賞に選ばれ、大変嬉  
しく思います。この作品は「ダジャレ」  
を主なテーマとしており、馬鹿馬鹿  
しいことを本気でやるというコンセ  
プトで、少年たちが駄洒落で闘い  
ながら成長する姿を描いたバトル・  
コメディです。どうすれば笑いを  
取れるのか悩み、苦労しました。だ  
からこそ賞を取ったときの感動が大



きかったのだと思います。協力して  
頂いた先生方、そして演劇部の皆  
さんには本当に感謝しています。

D3-1 鈴木 哲也

## ■クラス立案の校外学習から

### 美術デザイン科 1-2

#### 「ゴッホ展」を見学

誰もが知っている「ゴッホ」の展覧会  
なので混雑を心配していたが、平日とい  
うこともあり思ったほどではなかつた。  
生徒たちも飽きることなく人垣を縫  
って鑑賞していました。丁度、実習の  
授業でも着彩画を制作しているので、  
色の使い方などを質問してくる生徒  
もいました。展覧会も「いかにして  
ゴッホになったのか」という趣旨で  
構成され、ゴッホ以外の関連する  
絵もあって、ゴッホの成長の過程が  
分かり易く展示されていた。また、  
国立新美術館の建物も素晴らしく充  
実した一日を過ごすことができました。



田子 薫 教諭

### 普通科総合選択コース 1-3

#### スケート実習

11月15日(月)、今年度2回目となる  
クラス最後の「校外実習」となります。  
LHR の時間にクラス全員で案を出し  
合い、決定しました。クラスの中には  
マイスケート靴を持っている生徒が3  
人いて、かなりの上級者もありまし  
た。ほとんどが初心者で、初めてス  
ケートをする生徒も数名いました。

はじめ、氷上に立つことがやっとの  
人も1時間もすると、一人で滑れる  
ようになっていました。転んでは  
歓声が上がリ、地元の小学生との交  
流もあって、とても楽しい「スケ  
ート実習」となりました。

大島 勇 教諭



## ■教員紹介

陶芸を始めて5年。拙い自分の作品が増  
えるたびに、何とも言えない至福の喜  
びを感じる。真っ白なご飯をよそった  
茶碗、色とりどりのおかずを盛り付  
けた皿……。自分で作った器に盛り  
付けると、どんな料理も実際より数  
段豪華で、美味しそうなものへと変  
身する。自惚れと揶揄されてしまう  
かもしれないが、会心の出来映え  
(どんな駄作であっても)に自然と笑  
みもこぼれる。

陶芸には「作る」楽しみと「使う」  
楽しみ両方がある。自分で作った器  
で生活を彩り、楽しむことができる  
ことほど、最高に贅沢なことはい  
だらう。冷たい粘土の感触の心地  
よさ、無から形あるものへと変化  
する面白さ、自分の思い通りに仕  
上げることの難しさゆえの楽し  
さ……。陶芸の魅力を感じるたびに、  
ますます陶芸の世界に魅了される。

今冬も私の粘土遊びはまだまだ  
続いていく。



国語科 岡 悦子 教諭

## ■編集者から

多くの方が趣味を持って、余暇を  
楽しんでいることだと思います。趣  
味は心を癒してくれるものと感  
じています。

15年前、長い間欲しくても手に入  
らなかった「フジペット」という  
昭和30頃発売になった子ども向け  
のカメラを買うことができました。  
体がだるく何もする気持のない  
時、そのカメラを手にし、ファ  
インダーをのぞいたりシャッター  
を切ったりすると、体に元気が  
みなぎってくるのを感じます。  
そのように感じる方は多くいる  
ものと思います。生徒の皆さん  
の中には、これから趣味を持つ  
ようになる人もいますかと思  
いますが趣味は心を癒してく  
れるはずです。



中山 幹明